

主を愛することにより

(ヨハネの福音書21・15〜19)

一、ペテロに授けられた使命

主イエスはペテロに語られました。15節です。彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」と。なぜこのような言葉を語られたのでしょうか。それはペテロに託された働きの大きさ、重たさのゆえであると思われる。主イエスを裏切ったペテロではありませんが、ペテロに対する使命は変わります。それは、何でしょうか。ヨハネの福音書から外れますが、主イエスは次のように言われました。(マタイ16・18)あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。と。わたしはこの岩の上に」と語られた(岩)とは、ペテロの告白「あなたは、生ける神の御子キリストです」(マタイ16・16)を指しますが、同時にペテロ自身を指します。ちなみにペテロ、すなわちギリシア語の「ペトウロス」は「石ころ」を指します。ですが、ヨハネの福音書1章には、シモン・ペテロが主イエスから「ケパ」と名付けられたと記されています。「ケパ」は「岩」の意味ですから、ペテロは「石ころ」ではなく

「岩」であったと知ることができます。主はペテロに、教会を建て上げる使命を託しておられました。そのペテロが主イエスを裏切り、失敗したままの状態であることを、主イエスは良しとされませんでした。それゆえに、「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか」と問うたと思われまます。教会を建て上げる働きにおいて、これだけは欠かせないものがあります。それは「愛」です。「愛」とは、第一に「アガペー」の愛、すなわち主イエスによって現された自己犠牲的な愛、第二に「フィリア」の愛、すなわち友を慈しむ愛です。注意しなければならぬのは、アガペーがたいせつであって、フィリアは劣っているとは言えないことです。主は言われました。(ヨハネ15・13)人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません」と。この場合の愛は、アガペーの愛であり、フィリアの愛であると言えます。

二、主イエスの取り扱い

話は元に戻りますが、主イエスの「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか」に対して、ペテロは答えています。15節です。(ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたが」存じます。と。この時のペテロの気持ち

はどんなだったでしょうか。前後関係から分かることは、ペテロが心を責められていたことです。なぜなら、「自分は裏切り者である。主イエスが自分を憐れんでおられるのは分かる。しかし主イエスとの関係が清算されていない。すなわち神との関係が清算されていない」という思いがあったからです。ところが、主イエスはおっしゃいました。15節後半です。(わたし)の小羊を飼いなさい。」と。言葉を換えるなら「神の教会を建て上げなさい」です。ペテロは、少し前に「あなたのためにはいのちも捨てます」(ヨハネ13・37)と語り、ほんとうにそのように思っていました。ですが、主イエスは「わたしのためにはいのちも捨てる」と言うのですか。まことに、まことに、あなたに告げます。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います」(ヨハネ13・38)と語られ、はたしてその通りになってしまいました。ペテロは「私は取り返しつかないことをしてしまった。私には消えることのない前科がある。こんな人間が指導者になれるとはとても思えない」と思っていたはずですが、主イエスは「わたしの小羊を飼いなさい」と三度くり返されました。聖書は、さすがにペテロの心が痛んだ、と記しています。ですが、三回とは、まったく同じことが三回くり返されたのではなく、言葉が微妙に異なっています。そうは言っても

17節に「イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか」と言われたので」とありますので、著者は同じ内容として扱っていると受け取れます。

三、神を愛する思いの出処

主イエスはペテロをどのようにに取り扱われたのでしょうか。それは、主イエスを愛する愛、言い換えるなら神を愛する愛の根拠はペテロの中にあるのではなく、主イエスの中にあると認めるように取り扱われました。「その程度のことには私にできる」と思う時に、私共は失敗します。あるいは、パリサイ派のユダヤ人のように傲慢になります(ルカ18・11〜12を参照)。ですが神は、「神さま。こんな罪人の私をあわれんでください」(ルカ18・13)と語った取税人を良しとされました。主イエスを信じる思い、主イエスを愛する思い、神を愛する思いの出処は自分の中にはありません。私を愛し、私のために命を捨ててくださった主イエスの中にあります。

イエス・キリストを信じる信仰生活・教会生活でたいせつなのは、主イエスを愛すること、神を愛することです。この勘所をつかんでいるなら、信仰がなくなることはありません。ありもしないことで悪口を浴びせられても、信仰が消えてしまうことはありません。